



2019年4月、学校法人甲南学園は創立100周年を迎えます。
これからも「人創り」の教育を受け継いでまいります。

甲南大学地域連携支援プロジェクト

丹波篠山 青山家文書に残された絵図

時を継ぐ

今をとらえ、過去を知り、
未来を予測する

篠山に残された 江戸時代の絵図

司馬遼太郎さんは日本や世界の各地を旅し、多くの紀行文を残している。それは現在「街道をゆく」というシリーズで、各地の歴史や風土、人々の暮らしに関する司馬さんの豊かな知見と率直な感想が披露されている。そのなかに「丹波篠山街道」という作品がある。

篠山藩(兵庫県篠山市)は慶長14(1609)年に天下普請で、篠山城が築かれ、松平康重が入部したことに始まる。慶安2(1649)年から100年ほどは形原松平家が藩主であったが、寛延元(1748)年から幕末までの120年ほどは青山家が当地を治めた。篠山は、京や大坂に近いことから軍事的に重要な地であり、青山忠朝から忠敏まで六代のうちには、所司代・大坂城代・老中など幕府の要職を勤めた者もいる。しかし青山家に関する研究は、まだ十分には深められていない。

江戸時代の大名研究では大名家に伝わった古文書が基礎になる。篠山市には青山家に伝わった古文書が残されており、多くの絵図が整理の途上であった。これらの絵図群は、これまでも調査が進められていたものの全容の解明には至らなかった。この課題に甲南大学の学生たちが取り組んだ。

歴らぼ地図班

甲南大学の文学部歴史文化学科には、学生が企画した学科内サークル「歴らぼ(歴史文化らぼ)」があり、教員を顧問として「古文書班」「中世班」「アラビア語班」「世界遺産班」「編集部」など様々なパートが活動し

ている。青山家文書の絵図の整理に取り組んだのは、鳴海邦匡教授を中心に活動している「歴らぼ地図班」である。

このような地域と連携した学生の活動を支援するため、甲南大学では地域連携センターが中心となつて活動資金を補助するプロジェクトを行っている。「歴らぼ地図班」は青山家文書の未整理の絵図を調査して目録を作るための「篠山プロジェクト」を企画、平成27年度の「甲南大学地域連携支援プロジェクト」として実施した。絵図のなかには数畳におよぶ大きなものもある。それらの調査をとつて写真を撮影するため、学生たちは何度も篠山に足を運んだ。その成果は「篠山市教育委員会所蔵 篠山藩青山家文書…近世絵図目録」として結実した。

学生による

地域研究の可能性

絵図に限らず古文書などの史料は、きちんと整理して目録を作ることが調査・研究の出発点である。市民が郷土の歴史を学び調べようとしても、史料の目録は必須になる。「歴らぼ地図班」の活動は、歴史を学ぶ学生による地域貢献として、史料整理と目録作りというアプローチがあることを示している。

「歴らぼ地図班」により、青山家文書の絵図の全容が判明した。しかし絵図のほかに数多く残された古文書については、まだ分からない点も多い。それは、青山家および篠山藩の実像が、解明されていないということでもある。「歴らぼ」の今回の取組が、さらなる篠山藩の理解に繋がると期待する。
過去から未来へ。甲南大学の学びの現場がここにあり。



篠山市立青山歴史村において「地図班」メンバーが青山家文書の絵図を調べている様子

「歴史文化らぼ」(通称…歴らぼ)は、歴史文化に関わることを実践的に学ぶために、甲南大学文学部歴史文化学科で展開されている活動。学生が主体となり、教員とともに実践する場として2013年度に始まった。現在進めている活動についてはホームページで紹介している。

<http://www.konan-u.ac.jp/hp/rekibun/>

甲南大学
KONAN UNIVERSITY
〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1